

Title	義和団の源流：乾隆年間の義和拳と白蓮教
Sub Title	
Author	和田, 博徳(Wada, Hironori)
Publisher	三田史学会
Publication year	1976
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.47, No.3 (1976. 4) ,p.62(230)- 62(230)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究余滴
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19760400-0062

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

義和団の源流

—乾隆年間の義和拳と白蓮教—

中国近代の民衆運動として名高い義和団の源流は勞乃宣「義和拳教門源流考」（光緒二十五年刊）が嘉慶十三年七月戊寅（十四日）の上諭および嘉慶二十年十一月初三日の那彦成奏疏の中に見える義和拳に求めて以来、嘉慶年間に始まつたと信ぜられている。しかし、義和団の源流は更に古く乾隆年間に溯る事實をここに明らかにしたい。

高宗実錄卷一千二乾隆四十三年十二月乙丑（九日）の条に、「拠國泰奏、派按察使于易簡等、前赴冠県、嚴拏義和拳邪教楊姓一案、拏獲楊四海。」とあり、山東巡撫の國泰が按察使の于易簡等を冠県へ派して義和拳邪教徒の楊四海を拏獲させた事情が記してある。そして高宗実錄卷一千一乾隆四十八年十一月壬寅（十五日）の条には、「有直隸南宮縣人魏玉凱喊稟、訊拏供称、在本縣魏家莊居住、該莊有鄉約李存仁、及魏學宗・簡七・王三・嚴齡等、与山東王倫、都是高口地方之李姓徒弟、從前原係白蓮邪教、演習拳腳、四十六年後、又改為義和拳、各人俱藏有繩鞭等語。」とあり、直隸省の南宮縣に居た白蓮教徒たちが拳脚を演習して乾隆四十六年以後は義和拳になつたと述べている。ここに王倫というのは乾隆三十九年に山東省の臨清を占拏した白蓮教反乱の著名な指導者であるが、これらの記事によつて、清末に義和拳の根拏地となつた山東西部・直隸南部地方は既に早く清朝全盛期の乾隆年間におりて、その活動舞台であつたことを知り得よう。

ところで最も注意すべきは右の実錄の中に、「義和拳邪教」とか「もと白蓮邪教であつたものが義和拳になつた」と記して、義和拳と白蓮教とが極めて緊密な関係にあつた事實を明示していることである。周知の如く、義和拳と白蓮教との関係の有無は、義和団の本質を知るために重要な問題として今日なお論争が続いている。これは從来、嘉慶年間より始まるときれていた義和拳には白蓮教との関係を示す明証が無かつた故であるが、右の乾隆年間の記事によつて、義和団の源流が白蓮教があつたことを何人も明確に承認しなければならないであろう。（和田博徳）